

## フランスにおける人づくりの水脈

現在、文部科学省は新学習指導要領において、子どもたちに思考力・判断力・表現力を身につけさせようと必死です。しかし、教育には時局に左右されない「地下水脈」ともいべきものがあり、それがその国独自の人づくりの源泉となっているのです。フランス的源泉を知るには、「哲学」と、「フランス語」(国語)に注目してみれば一目瞭然です。

フランスの場合、高校3年に「哲学」が必修で設置されており、6月のバカロレア(高校卒業と大学進学資格同時取得の国家試験)の際には、「哲学」から受験となります。哲学の試験は、3題のうち1問を選んで4時間かけて論述するのですが、出された問題に対する客観的解釈能力の精緻さと受験生独自のアプローチ、論理構成能力、そして明晰にして美しい表現力が問われます。暗記というのは、ここでは通用しないわけです。今年度の人文系コースで出された問題1は、「時間から逃れることは可能か」Est-il possible d'échapper au temps? であり、問題3は、ヘーゲル『法の哲学』からの抜粋でした。受験対策用の参考書が書店で売っているとはいえ、自分自身が常に社会の問題、世界・人類の問題に目を配り、かつ哲学史上名高い作品のさわりの部分を学んでいなければ太刀打ちできません。1980年代後半に哲学の授業の廃止論が浮上しました。進学率が高まった時代にあって、哲学の

授業についていけない若者が増加したためです。しかし、大論議の末に、哲学の授業は存続されました。

第2の地下水脈は、「フランス語」(国語)です。初等段階から一貫しているのは、歴史の錬磨を経て愛されている芸術のオンパレードともいべき大人並の教養観で教科書が溢れていることです。「文学」という精神文化がフランスのすべてを支配している、とはクルティウス(現代ドイツのフランス学の巨匠)の言葉であるが、哲学さえも「文学」の傘の下におかれるのがフランスなのです。小説、戯曲、ポエムが厳選されて章をなし、各章の1節1節に、内容に見合う世界の名画・名作がカラーで挿入されています。ピカソも出てくれば、ロダンもルノアールも出てきます。国語の学習で、子どもたちは人類の遺産を味わうわけです。写真は、ベルギー生まれ



の詩人、モーリス・カレームの8行詩「猫とお日さま」に添えられた17世紀ロシアの版画です(小2国語)。詩の暗唱でリズムと韻をふむ楽しさを覚え、名詩、名セリフが娘の口からほろっと出てきて感動した、といった親も少なくありません。人づくりとはこういうことなのですね。

石堂常世(会員 早稲田大学名誉教授)

## 2019年度秋季 実用フランス語技能検定試験

公益財団法人フランス語教育振興協会

■実施級 準1級、2級、準2級、3級、4級、5級

■実施日程 1次試験(準1・2・準2・3・4・5級)

2019年11月17日(日)

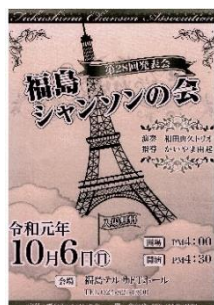
2次試験(準1級・2級・準2級の1次合格者対象)

2020年1月26日(日)

■受付期間 願書郵送によるお申込:9月1日(日)~10月16日(水)※消印有効

インターネットでのお申込:9月1日(日)~10月23日(水) 23:59まで

■福島会場 福島学院大学 福島駅前キャンパス



## 福島シャンソンの会 第28回発表会

かはやま由起先生の指導を受けた約20名の方々が出演されます。

ご家族ご友人お誘いの上ご来場下さい。

■日時 10月6日(日) 開場16時 開演16時30分

■会場 福島テルサ FT ホール(TEL 024-521-1500)

■入場無料

■お問合せ 090-2276-9138



lire 日本バレエのパイオニア —バレエマスター小牧正英の肖像—



バレエと聞いて、おそらく多くの人  
がイメージされるもの、それは「白鳥の  
湖」ではないだろうか。小牧先生は、「白  
鳥の湖」の日本初演を手がけた方であ  
る。それも 1946 年 8 月 戦後からたっ  
た 1 年、まだ焼け野原が残る東京で。そ  
のときのことを、後にこう残している  
日本のバレエの発展のため、そしてバレエという言葉す  
ら禁じられた時代もその燈火を消すことなく、守りぬい  
てきた同士たちのために、如何なる困難に遭遇しようと  
私の精力の総てを惜しみなく使い果たす、そう決心した。

—世界を席卷したバレエ・リュス 小牧先生のことを  
お話する上で切り離せないもの。それはバレエ・リュス  
だ。芸術を愛する人ならば、ニジンスキー、ディアギレフ  
といった名前をきつとどこかで耳にしているはずである。

太陽王ルイ 14 世の時代に宮廷舞踊として誕生した  
バレエは、フランスからロシアへ渡り、総合芸術として  
華開く。白鳥の湖や、眠りの森の美女がうまれたのも、  
この頃だ。1910 年、そのロシアで生まれたバレエを、芸  
術の地、花の都パリへ運んだのが、ディアギレフ率いる  
バレエ団「バレエ・リュス」だ。その初演は、パリの社交  
界を震撼させ、センセーショナルを巻き起こした。古典  
バレエを上演するのではなく、最先端バレエ芸術をこだ  
わり抜き、芸術や文化の流行の的となった。

音楽は、ストラヴィンスキー、エリック・サティ、舞台  
美術にはピカソ、マティス、ダリ、衣装はココシャネル  
脚本はジャンコクトーが手がけ、皆こぞってバレエリュ  
スに参加した。若きストラヴィンスキーの才能を見出し  
たのも、ディアギレフである。

そのバレエリュスは 1920 年解散後、世界各地へと  
飛び火し、バレエは世界中へ広がっていく。アメリカへ  
バレエを運んだジョージ・バランシン、イギリスの英国  
バレエ団の創立メンバー アントン・ドーリン、フランス  
のパリ・オペラ座バレエ団の再建に尽力したセルジュ・  
リファールも、皆バレエリュスのメン  
バーだ。その影響はアジアへも広がり  
をみせた。亡命や革命の影響をうけ、  
上海へ渡り、上海バレエリュスが立ち  
上げる。

1940 年、まだ、日本にバレエを知  
るものなどほとんどいない時代に  
上海バレエリュスで、ソリストとして  
活躍したのが、小牧正英なのだ。帰国  
する 1946 年まで、バレエ・リュスの  
全作品に出演している。帰国後、

自ら舞台に立ちながら、後進の指導にあたり、日本のバ  
レエ界を席卷した人々は、ほとんどか小牧先生の門下生  
である。

私をバレエの道へ導いてくれた恩師 佐藤多賀子先生  
(福島すみれバレエ学園)も、その一人。小牧先生の愛弟子  
として、福島でバレエ教室を創設。福島で、白鳥の湖や、  
ジゼルを初演した際、振付・指導に当たったのも、小牧  
先生である。私は一度もお目にかかることはなかったが、  
その息吹は幼い頃からいつも感じていた。公演の度に、  
小牧先生からの祝辞が届き、それを読むのが好きだった。  
「観客へ超絶技巧を見せるのがバレエではない、心を通  
わせて踊ることこそがバレエである」バレエとは何たる  
かを、恩師を通して学んだ。

数々の古典バレエ～モダンバレエの演目がある中で、  
幼い時から特に好きだったのが「レ・シルフィード」「薔  
薇の精」である。どちらも小作品であるが、夢見ごごち  
な独特のポールドブラ(腕の動き)が幻想的で、その練習  
風景を、鏡張りの大きな稽古場で、じっと見ているのが、  
好きだった。それは、バレエリュスがパリで上演し、脚  
光を浴びた演目であり、小牧先生が日本へ運んだ演目で  
ある。きっと、小牧先生がいなければ、そして佐藤先生  
と出会っていなければ、私はこれほどまでに、バレエ  
を愛することはなかっただろう。きっと誰しも、一度も  
会ったことはないが、運命や不思議な縁を感じる。そん  
な人がいるのではないだろうか。

大それた言い方に聞こえてしまうのは百も承知だが、  
私にとって小牧先生は、そんな存在だ。——嬉しいこ  
とに、小牧先生は東北の生まれ(江刺のご出身)戦前東北  
から、どのようにして、上海バレエリュスのソリストに  
まで上り詰めたのか、私は不思議に思っていたが、本書  
には様子が詳細に書き記してあった。

アンナ・パブロワの来日公演(日本初のバレエ公演)を  
祖母とみてバレエに魅せられたこと。バレエを習うこと  
はできなかつたため、せめてものと母親が父親に内緒で  
ロシア語を習わせてくれたこと。舞踊の道を諦められず、



小牧正英先生と佐藤多賀子先生



家出同然で上京し、資金調達に勤しみ、シベリア鉄道でパリを目指したこと(その際、通行許可証を取得するのが困難だったため、貨物列車に乗り込むも、乗務員に見つかりハルビンで降ろされた)。ハルビンでロシア革命を逃れたダンサーが創設したバレエ学校に入学し、その後上海バレエリュスへ招致されたこと。上海へ渡る際も、日本人であることがわかると連行される可能性があるため、タタール系ロシア人になりすまし、命からがら上海へ渡ったこと(幼い頃からロシア語が話せたため、窮地に立つ場面はあるものの、難を逃れた)。生まれ育った場所を、そして祖国日本を発つことも、今では考えられないほど、容易にはできない時代である。

しかし、本書を読んでいると、小牧先生の中ではその困難なことはあくまで通らなければいけない道であり、バレエ、舞踊へのほとばしる情熱が、そのことを遙かに上回っているのだと、ひしひしと伝わってくる。

小牧先生が、時に命をかけ、学んだバレエは、冒頭にご紹介した白鳥の湖の初演を皮切りに、バレエブームを巻き起こすわけだが、ここで、もう一つ、驚いたことがある。初演の舞台美術を、エコール・ド・パリの代表画家

藤田嗣治が手がけているのである。小牧先生が、美術をお願いできるのは彼しかいないと、懇願したとのこと。

バレエリュスの話を思い出していただければ、その理由はお分かりだろう。バレエリュスの美術は、当時、藤田の同志であった、ピカソやダリが手がけている。小牧先生は、本場の美術芸術を再現したかったのである。そしてまた、藤田もバレエリュスに参画したいと切に願っており、一つ返事で、快諾したのだ。フランスを愛する人ならば、このエピソードは胸が高鳴るのではないだろうか。(昨年東京シティバレエ団にて、藤田の美術を忠実に再現した白鳥の湖が上演され、話題となった。再演を願うところだ)

また機会をいただけたら、白鳥の湖初演から、日本のバレエへ尽力したそのプロフェッショナリズムについてお伝えしたいと思う。この夏の間、日本では来日公演が盛んに行われている。小牧先生が魅せられたバレエの世界に興味を持っていただけたら、ぜひ足を運んで欲しい。

最後に、本書を贈って下さった、そしてバレエの道へ導いて下さった、恩師 佐藤多賀子先生へ心より感謝申し上げます。

齊藤めぐみ (佐藤多賀子すみれバレエ学園所属)

## 久美子のお菓子歳時記～*Jadore\_lesgateaux* (7)

日ましに深まる秋を感じる頃となりましたね。焼き菓子が恋しくなる季節。

今回はフランス伝統の地方菓子～とびきり簡単、おいしいお菓子をブルターニュ地方からご紹介いたします。

### <Far Breton ファーブルトン>

直訳すると“ブルターニュ地方のおかゆ”と言う意味のこのお菓子。元々は牛乳で小麦粉を煮たおかゆだったようです。材料もシンプルで卵、砂糖、牛乳、小麦粉だけ。

焼き立てはカリッ！中はもっちもちの食感。カスタードクリームがお好きならおすすめです。生クリーム、ドライブルーンを入れて少しリッチに。美味しいですよー



#### ○材料

- 丸型 15 センチ、または角パット、マフィン型などなんでも OK !
- ・卵 3 個 ・上白糖 130g ・バニラエッセンス少々
- ・薄力粉 90g ・牛乳 300cc ・生クリーム 150cc
- ・ラム酒 大さじ 2 (お好みでなんでも)
- ・ドライブルーン 1 袋 (レーズン、リンゴ等でも)

#### ○作り方

1. 型にバターを塗る。オーブンを 200℃に予熱する。
  2. ボウルに卵を溶きほぐし、砂糖、バニラエッセンスを入れ混ぜる。
  3. 薄力粉をふるいながら 2 回に分けて入れ、練らないで混ぜ合わせる。
  4. 生クリーム、牛乳、ラム酒も加える。
  5. 型にブルーンを並べ入れ、4 の生地 (サラサラ生地) をこしながら注ぎ入れる。
  6. 200℃で 20 分焼き、180℃に落として 30 分～40 分焼く。冷まして型から出し、切り分ける。
- ※少し温かいうちがおすすめですよ。

(料理教室受講生 本田久美子)

## 私のフランス語日記 *Le voyage à l'est du Tibet*

Je me suis rendu deux fois à l'Est du Tibet : il y a 3 ans et 2 ans en octobre, parce que j'avais envie de visiter les tours de garde en pierres que j'avais aperçues sur le chemin de Jiuzhaigou (九寨溝) il y a 20 ans.

A cette époque-là, seulement les villes renommées étaient ouvertes aux étrangers en Chine, j'avais renoncé à les visiter. Il y a 3 ans, la télé a passé un documentaire sur la ville de Danba(丹巴) où j'ai revu ces tours de garde. Ce jour-là, j'ai acheté sur Internet un billet d'avion pour Chengdu (成都), la capitale de la province du Sichuan(四川省).

Depuis Chengdu à Danba, il a fallu environ 12 heures en bus malgré la durée annoncée 8 heures. Certaines sections de la route s'étaient effondrées, dés éboulis de roches et des collisions de voitures encombraient la voie. Il était impossible de prévoir l'heure d'arrivée. La majorité des Chinois semblaient être habitués à cette situation : ils attendaient dehors sans soucis. Le bus est passé par monts et par vaux, par endroits l'altitude dépassait 4000m. J'avais peur. A Danba, je suis allé dans un hôtel sans réservation, heureusement cet hôtel était ouvert aux étrangers. Le lendemain j'ai logé dans une chambre d'hôtes dans une petite ville sur la recommandation du réceptionniste. Le paysage autour de la chambre était à couper le souffle.

L'année suivante, c'est à dire, il y a 2 ans, j'ai décidé d'aller plus à l'ouest vers la région tibétaine. (En ce qui concerne la région autonome du Tibet, il faut voyager en groupe avec un guide.) Je suis allé à Kangding(康定), qui s'appelle la porte d'entrée du Tibet. Je suis resté quelques jours pour visiter les alentours. Ce voyage était un peu dur. Pas de problème

### 東チベット旅行

ここ 2 年前と 3 年前の 10 月に中国の四川省西部のカンゼチベット族自治州を訪ねた、と言うのは 20 年ほど前、九寨溝に行った際、バスの車窓から見た石の塔が気にかかり是非近くで見てみたいと思っていた、当時は外国人が行ける地域は限られていて、諦めていたが 3 年程前テレビで四川省の丹巴に関する番組を放映していた。その中にあの石の塔が見えた、その日の内にネットで成都行きの航空券を購入した。

成都からバスで事前の情報では 8 時間だったが、約 12 時間以上かけて丹巴に着いた、途中崖崩れや車両同士の事故などで到着時間は予測不能であった、中国人は慣れたもので車外でのんびりしていた。4 千メートル超の峠を越えていくのでハラハラした。宿は予約してなかったが、外国人も宿泊可能であった、翌日はホテルの受付の人の勧めで石の塔の有る地区に民宿した。民宿の周りの景色は息を飲むようであった。

翌年即ち 2 年前、今度はもう少し西のチベット族の中心地までいくことに決め、(チベット自治区そのものは外国人は個人旅行はできない、ガイド付きの団体旅行のみである)チベットの入口と言われる、康定まで行きそこに滞在して周辺の地区を訪ねた、この旅行はかなり大変であった。まず康定までは一日 2 本のバスが有り問題ない、但し相変わらず時間は読めない、1 日掛りである、ホテルは外国人の受け入れが可能なものが少ない、やむなくユースホステルに泊まった、正解であった、

de transport, le bus circulait deux fois par jour. L'heure d'arrivée était aussi incertaine, il fallait compter une journée. Il était difficile de trouver des hôtels ouverts aux étrangers, j'ai été obligé de loger dans une auberge de jeunesse. Ça a été un bon choix. Il y avait des jeunes qui parlaient l'anglais et m'ont donné des informations sur la région.

La ville de Kangding, par sa location proche du Tibet, est une région très contrôlée. La nuit, quelques policiers sont entrés dans ma chambre pour m'interroger sur la raison du voyage et la durée de séjour etc. Pendant le déplacement, la police a souvent procédé à des interrogatoires non seulement avec étrangers mais aussi avec Chinois. Ça s'est passé dix fois au plus par jour.

J'ai emprunté un taxi collectif avec trois Chinois pour aller à Tagong(塔公) où il y avait un célèbre temple tibétain et à Xinduqiao(新都橋), un endroit célèbre pour sa beauté. Le paysage à Tagong était magnifique, les montagnes Gonggashan(貢嘎山)(7556m d'altitude) se dressaient en face. Comme l'altitude de Tagong est de 3750m, j'ai souffert du mal des montagnes, je n'ai pas apprécié sa beauté. A mon retour, j'ai hésité entre rester quelques jours et aller dans l'ouest. A cause de la santé et de la haute surveillance policière, j'ai résolu d'aller à Xichang(西昌), une ville de la province du Sichuan(四川省). C'était un déplacement depuis la région tibétaine à la région de l'ethnie Yi, le contrôle est devenu plus sévère. Jusqu'à l'autoroute tous les voyageurs ont été interrogés 4 fois, après l'entrée sur l'autoroute, ça a été un bon voyage. A Xichang pas de contrôle policier, j'ai pu jouir pleinement du voyage. Takashi Hasegawa

若者が多く、英語が話せて、この地域の情報が容易に得られた。

チベットの入口と言われるだけあり、公安警察のチェックは大変であった、夜中に数人の公安が部屋に入ってきて滞在の目的や行先をチェックしたり、バスやタクシーで区内を移動中、しばしば検問を受けた、これは外国人だけでなく中国人も同様であった。多い日は 10 回もやられた。

ユースホテルに泊まっている三人の中国人とタクシーをチャーターしてチベット族の寺院の有る塔公寺や名勝地の新都橋を巡った。塔公の景色は素晴らしく、眼前に標高 7556メートルのミニヤコンガがそそり立っていた、ただ塔公の標高は 3750メートルあり、高山病の影響でとても満足に景色を眺める余裕は無かった、ユースホテルに戻ってから、暫く康定に滞在するか更に西に行くか迷ったが、体調と公安のチェックを考えて、四川省南部の西昌に行くバスが出ていたので、そこに行くことに決めた、チベット族の地域からイ族の地域である西昌に行くので、公安のチェックは更に厳しくなった、高速道路に入るまで 4 度もバスから降ろされ検問を受けた。高速に乗ってからは快適な旅になった、西昌では公安の姿は無くやっと旅の楽しさを味わった。 会話教室受講生 長谷川 孝

